

*テーマ アイドル活動

*対象年齢 4・5歳児

*テーマ設定理由

4・5歳児今年度のはじめより、5歳児がアイドルに興味をもち、歌の練習をしたり、制作した髪飾りやアクセサリなど身に着けたりしてアイドルになりきる姿があった。また、アイドルを応援するファンになったり、コンサート会場で売られている食べ物を制作したりするなど、アイドルになりきる友達と一緒に遊びが広がる様子が見られた。こうした子どもの実態から、アイドル活動を通して一人一人が自分なりの表現方法で存分に楽しみ、様々なことに興味関心をもてるようにテーマを設定した。

事例1 <11月22日>
どうやって楽しむ？応援グッズ作り

事例2 <12月5日・6日>
お楽しみ会でアイドルコンサート

事例3 <1月23日>
本物のアイドルかわいいな

自由遊びの中でアイドル活動に盛り上がりが見えてきたが、一部の子どもにとってアイドルは女の子がするものと消極的であった。どのように興味関心を広げていくかを考え、アイドルと限定せずヒーローもいるととらえてそのヒーローが来園する計画を立てた。

ダンスの練習をしたり、コンサートで使うものの制作をしたりして当日に向けて準備を進めていたが、遊びの継続性はなく、一部の子が取り組む様子も見られた。準備したことを披露したり、ヒーローが来園したりすることをきっかけに遊びが広がっていくよう、コンサートを計画した。

活動を進めていく中で、本物のアイドルに会ってみたいという気持ちが子ども達の中に芽生えてきた。アイドルが普段どのようなことをしているか、アイドルを支える仕事にはどのようなことがあるのかを知ること、さらに興味関心を広げられないかと考え、アイドル事務所と連絡を取り、ミニコンサートを計画した。

【事例1】どうやって楽しむ？応援グッズ作り

ねらい：アイドルのコンサートの雰囲気を知る
廃材などを使って自分なりの応援グッズを制作



材料をどうやって使おうかな？



キラキラさせるにはどうしようかな？



初めてアイドルのコンサート映像に興味津々！

***用意した環境** 制作の材料、映像の鑑賞、ヒーロー来園の張り紙

*保育者の振り返りと気づき

子どもの中には、アイドルは女の子がするものと思っている子もいて、アイドルと限定せずヒーローもいるととらえてヒーロー来園の計画をしたことで、期待感をもち楽しみながら応援グッズを制作するきっかけになった。始めは、応援グッズのイメージが湧かなかった子も、映像や制作の材料を目の前にすると、アイディアが浮かび自ら取り組めるようになっていた。また作ったものを使って、友達と一緒に映像を見ながらアイドルやヒーローの応援することを楽しんでいた。4. 5歳児合同のコーナー遊びとして取り組んだことで、5歳児のアイディアや制作方法を4歳児がまねる様子もあり、応援グッズ以外にも食べ物制作へと制作意欲の広がりが見られた。「キャラメル味がいいかな」などと想像しながら、ポップコーンや焼きそばなどを作り、工夫したことなどを友達や保育者に伝えていた。

【事例2】お楽しみ会でアイドルコンサート

ねらい：準備や練習したものをみんなの前で楽しく披露する



練習を重ねたダンスを披露



ポップコーンいかがですか？

大井レンジャーの登場に大喜び



*用意した環境

コンサート会場の飾りつけ、アイドルの衣装、応援グッズ、食べ物やさんの用具

*保育者の振り返りと気づき

5歳児のコンサートでは、応援グッズを作ったり、ダンスの練習をしたり、会場の装飾をしたりと今まで準備していたことをそれぞれ披露できた。応援グッズの音が鳴るように試行錯誤したり、友達とイメージを共有したりしながら作ることを楽しんでいた。その後の自由遊びの時間には、コンサートをまねてステージを作りアイドルごっこをしたいという意欲にも繋がり、自ら衣装やマイクなどを作って遊ぶ姿も見られた。作った食べ物をコンサートの観客に振る舞う場面では、行列になり混雑した。待たせずに食べてもらえるように、食べ物の数を追加する、制作の材料を変更するなどして改良を重ねる等工夫していた。当日いなかった他クラスより再演の要望があり行うこととした。前回よりもゆとりをもって案内でき、お客さん達が楽しんでいた様子が子どもの自信へと繋がっていた。

【事例3】本物のアイドルかわいいな

ねらい：本物のアイドルに触れ合う

自分で作った応援グッズを使って応援することを楽しむ



本物のアイドルの登場にびっくり



最後にハイタッチ

作ったグッズで応援



アイドルになりきって



***用意した環境** アイドルミニコンサート、自分で作った応援グッズや装飾品

***保育者の振り返りと気づき**

アイドルが普段していることや、アイドルに関わる仕事についてパネルを見ながら話を聞き、アイドルを身近に感じながらコンサートを鑑賞したことで、まねをしてみたい気持ちが高まり、「おやつのとアイドルしよう」と友達と話していた。今まで知らなかったアイドルに関わる仕事や練習をたくさんしていることなどを知り、チケット制作や座席の準備、カメラマン係など新しい役割が増え、制作活動を交えながらアイドルごっこに取り組む姿が見られた。さまざまなアイドルがいることを聞き、今までアイドルごっこに参加していなかった子も一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しむ姿が見られた。子どものやりたいことやしてみたい気持ちに寄り添いながら実現できる環境づくりを継続していく。